

「上野地区の将来像（目指す姿）」と「検討テーマ」について

第1回ビジョン委員会で提示した「将来像」

上野地区の将来像(目指す姿)(案)

「山の文化・芸術機能」と「まちの産業・生活・文化機能」の融合／多様性／観光への対応 等

将来イメージ①
世界に誇る“文化・芸術・賑わい・みどり”を広げるまちづくり

将来イメージ②
世界・日本各地とつながる“日本の玄関口”である上野駅周辺を拠点とするまちづくり

将来イメージ③
多様な歴史・文化が残る“上野らしい”賑わいとコミュニティを育むまちづくり

将来イメージ④
だれもが安心して安全に過ごせるまちづくり

第1・2回基盤整備部会

・山とまちを分断している崖線沿いに、山の文化とまちの文化が融合し、山とまちの動線を明快につなぐ「アーバン・ステップ」を創出する

協議会の提言書

「街に求められること」
・街の魅力の維持発展
・街と山と駅の一体化
・街のルールを作ること

第2回ビジョン委員会で提示する「将来像」と「検討テーマ」

上野地区の将来像(目指す姿)(案)

「文化芸術立国」を先導し
日本と世界をつなぐ
文化・芸術の殿堂

— Japan Cultural Heart UENO —

I
日本の文化・芸術の創造・発信を先導する拠点

・上野「文化の杜」を中心として、文化・芸術の創造と世界への発信が行われている

・世界中の人材が集まり、文化・芸術関連技術の発展を先導する研究、交流、人材育成、産業振興との連携が常に行われている

II
上野全体で感じられる文化・芸術・歴史に惹かれて、世界と日本の各地から人々が集まる

・上野公園・駅・まちを含めた上野全体で、あらゆる人が日常的に文化・芸術・歴史に触れられる機会が提供されている

・世界中、日本中から人が集まり、上野に住み・働き・訪れることで常に新しい賑わいが生まれるとともに、安全・安心で快適に滞在し歩き回ることができる

検討テーマ(案)

「文化・芸術の殿堂」上野を世界にどう認識してもらうか
(杜とまちを含めた総合的なブランディング)

【杜を拡げる】

※上野「文化の杜」新構想推進会議と連携して検討

- 各既存施設の展示環境の充実のための、公園内外での展示スペースの充実
⇒上野公園・駅・まち全体を活用した、体系的な展示構成と総合的で大規模な展示・収蔵空間の再編・拡張
- 各既存施設の拠点機能を強化するための関連機能の充実
⇒上野公園・駅・まち全体を活用した、研究、交流、人材育成、インキュベーション機能等の拡張
- 文化の杜全体としての活動や情報発信が図られるソフト・ハードの連携の充実
⇒各施設が共同利用できる施設（宿泊・滞在機能、大規模休憩スペース等のサービス施設等）の拡張、情報の更なる一元化発信や共通ロゴ・サイン等の広報戦略の展開等

【杜とまちをつなぐ】

※基盤整備部会を中心に検討

- 上野公園・駅・まちを回遊するわかりやすい歩行者ネットワークと、高低差を解消しアクセス視認性の高い縦動線の整備
- 日本と世界をつなぐ顔に相応しい歩行者広場空間と、わかりやすい交通結節点の創出
- 杜とまちをつなぐ結節点に必要な機能の導入・誘導（日本文化体験案内施設、杜やまちの情報提供機能、文化観光おもてなしサービス（チケットング・予約・荷物預かり転送・飲食等）、杜やまちを巡るフィーダーサービス、空港機能の補完等）
- まちを見渡せる場所、まちを象徴する空間の整備
- 広域避難場所である上野公園への避難動線の確保 等

【杜とまちを活気づける】

※まちづくり部会を中心に検討

- まちの魅力の維持発展に必要な機能の導入・誘導（情報案内、観光や街歩きの居場所、交流等の機能導入及び拠点整備等、上野全体で必要な機能の検討）
- まちから杜を見渡せる場所、まちを象徴する空間の方向性の検討（寛永寺参道としての広小路の復活、ごちゃごちゃ感の継承、地域のテーマ性を持ったまちづくり等）
- 平時からの防災文化の意識醸成（非常時に来街者・帰宅困難者対応の核となる都市防災拠点の整備、体制の整備）
- 多様で豊かな地域の価値を高めるエリアマネジメント（体制の整備、一体的なサイン計画、ロゴデザイン、景観や道路活用ルールづくり、建物更新時のルールづくり等）と周辺地域との連携等

凡例 緑： 基盤整備部会で検討
青： まちづくり部会で検討
茶： 基盤整備部会及びまちづくり部会で連携して検討

第1回ビジョン委員会意見を踏まえた検討

第1回ビジョン委員会での意見

- 上野は日本の文化、お宝の中心。上野が東京・日本にとって非常に重要ということに、さらに磨きをかけるためのビジョンであるべき
- 上野らしさの再定義が必要
- クローンをつくることはやめよう

上野の重要性・上野らしさとは

- 世界文化遺産を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設が集積している・別添1,2
- ・“「文化芸術立国」を実現する”
—文化芸術推進基本計画（第1期 H30.3）
- ・“多様かつ高度の文化・教育施設が集積している世界的にも稀有なエリア”“世界最高水準の文化芸術都市・国際遊学都市の形成を目指す”
—上野「文化の杜」新構想 H27.7
- ・世界の主要文化施設と比較すると、施設単体の集客力・面積は劣るが、施設集積度は高く地区合計でみたときの集客力は高い
- 多様で特色ある文化・歴史資源（激動した江戸・近代の日本が生きているまち）
- 空港直結の日本の玄関口、交通結節点

【参考】上野の重要性とは ～関連計画等～

文化・芸術分野における国家的政策目標について

文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成27.5 閣議決定）

- 文化芸術資源で未来をつくり、以下のような「**文化芸術立国**」の姿を創出していくための国家戦略となることを目指すための基本的な方針を示すもの。

【我が国が目指す文化芸術立国の姿】

- ✓あらゆる人々が全国様々な場で創作活動への参加、鑑賞体験ができる機会の提供
- ✓2020年東京大会を契機とする**文化プログラムの全国展開**
- ✓被災地からは復興の姿を、地域の**文化芸術の魅力と一体となり**国内外へ発信
- ✓文化芸術関係の新たな**雇用や産業が現在よりも大幅に創出**

- 「文化芸術立国」の実現のための成果目標と成果指標を提示

【成果目標・成果指標】

日本の誇りとして「文化芸術」を挙げる国民の割合（2014年1月：50.5%→2020年に**約6割**へ）

地域の文化的環境に対して満足する国民の割合（2009年11月：52.1%→2020年に**約6割**へ）

寄付活動を行う国民の割合（2009年11月：9.1%→2020年に**倍増**へ）

鑑賞活動をする国民の割合（2009年11月：62.8%→2020年に**約8割**へ）

文化芸術活動をする国民の割合（2009年11月：23.7%→2020年に**約4割**へ）

訪日外国人旅行者数（2014年：1,341万4千人→2020年に**2000万人**へ）

文化芸術推進基本計画（第一期）（平成30.3 閣議決定）

- 文化芸術基本法に基づき、文化芸術に関する**施策の総合的かつ計画的な推進**を図るための基本計画

II 今後の文化芸術政策の目指すべき姿

文化芸術は、それ自体が固有の意義と価値を有し、心豊かな活力ある社会の形成にとって極めて重要な意義を持ち続けるという**文化芸術基本法の精神を前提**とし、以下のように定める。

目標1 文化芸術の創造・発展・継承と教育
文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されている。

目標2 創造的で活力ある社会
文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランド形成に貢献し、活力ある社会が形成されている。

目標3 心豊かで多様性のある社会
あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されている。

目標4 地域の文化芸術を推進するプラットフォーム
地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地で形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域文化コミュニティが形成されている。

文化芸術立国中期プラン（平成26.3 文化庁）

- 2020年末時点において、美術館や博物館、音楽ホール等「**上野の杜**」への**来訪者数**（現在年間1100万人〔2009年実績等〕）が**増加している（目標は3000万人）**。

上野「文化の杜」新構想

上野「文化の杜」新構想（平成27.7 上野「文化の杜」新構想推進会議）

上野「文化の杜」新構想推進会議

- 平成25年12月24日、青柳文化庁長官及び宮田東京藝術大学学長を発起人代表として発足。
- 上野地区において年間3,000万人の集客を可能とするために必要なハード・ソフト両面にわたる整備方針について検討することを目的とする。（上野「文化の杜」新構想推進会議・設立趣意書より）
- 上野公園内の文化施設、文教施設、行政機関、観光連盟、鉄道事業者により構成される。
- 2020年に向けた国際発信戦略として、平成27年7月、上野「文化の杜」新構想をとりまとめた。

【ポテンシャル】

- 上野公園は、寛永寺、上野東照宮、清水観音堂をはじめ江戸時代の建造物や史跡等の歴史的資源と、桜の名所や不忍池等に代表される自然環境に恵まれ、我が国を代表する博物館、美術館、動物園、音楽ホール等の文化施設や芸術系大学等が集結し、それぞれ文化芸術活動等を展開している
- 内国勧業博覧会や東京勧業博覧会が開催されるなど、近代的な祝祭の中心地として、また、最先端の産業文化の国家戦略的な交流発信の拠点でもあった
- 徒歩で回れる範囲内に多様かつ高度の文化・教育施設が集積している世界的にも稀有なエリア**である

【課題】

- 各施設の創意工夫による「点」としての活動にとどまっておらず、それぞれ設置者が異なる各施設どうしの連携した事業はあるものの、十分とはいえない
- 「文化の杜」全体としてのイベントや環境づくりを推進するための**マネジメント体制を新たに構築**することが必要
- 高齢者・障がい者が安全・安心で利用しやすい**ハード・ソフト両面の整備**や時代を担う子どもたちが「芸術」にふれあい、感動し、心ゆたかに、常に〈ときめき〉が満ちあふれることができるよう、**上野「文化の杜」や街に「新たな賑わい」を創り出していく**ことが重要

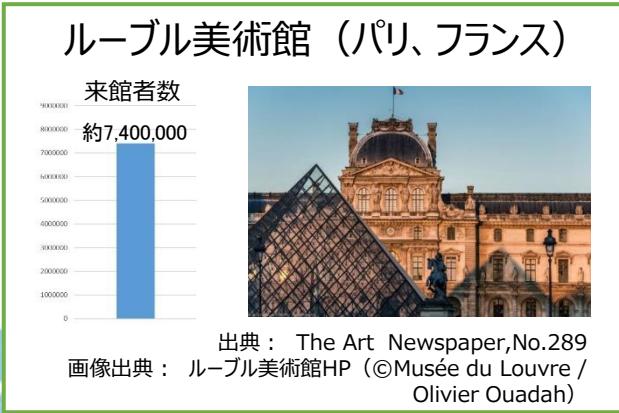
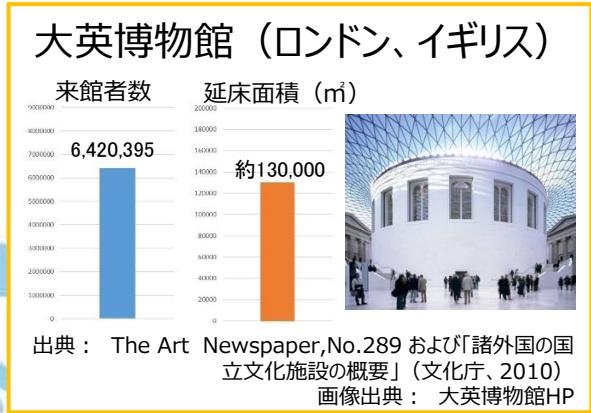
【文化芸術資源の活用に向けた取り組みの推進】

- 魅力あるイベント等の共同実施
 - 年間を通じた集客拡充を図るための「共通イベントや文化プログラム等の実施」
 - 観光客等の利便性（集客）を高めるための「共通入館券の発行等」
- グローバル化を先導するための「効果的な広報戦略の展開」
- 国立西洋美術館の世界遺産登録の推進
- 安全・安心で入場、観覧出来るための「ユニバーサルデザインの推進と利用促進」
- 上野「文化の杜」を担うための「職員の資質向上と高度専門人材育成（連携型）」
- 上野「文化の杜」新構想の実現可能性を広げるための「文化芸術特区の可能性」

【国際文化交流の拠点と新たな賑わいづくりに向けた基盤整備】

- 快適なアクセスの確保
 - 安全・安心で快適なアクセス・ポイントにするための「**JR上野駅周辺の整備**」
 - 公園内の移動や他地域との回遊性を高めるための「**アクセス環境の整備**」
- 展示スペースや共同利用施設の整備
 - 3,000万人の集客を実現するための「**展示スペースの充実**」
 - 限られた資産を有効活用するための「**共同利用施設等の整備**」
- 安全性の確保と地域防災に貢献するための「**防災拠点等の整備**」
- 上野全体のまちづくりを活性化するための「**エリア・マネジメントの推進及びアート・クロス等の整備等**」

【参考】上野の重要性とは ～上野地区文化施設（美術館・博物館）と世界の主要文化施設の比較～



世界の文化施設（美術館・博物館）来館者数ランキング

出典： The Art Newspaper, No.289, London, 2017

来館者数 ランキング	名称	都市	来館者数 (年間, 2016)	収蔵数
1	ルーブル美術館	パリ	7,400,000	約35万点
2	メトロポリタン美術館	ニューヨーク	7,006,859	約200万点
3	大英博物館	ロンドン	6,420,395	約800万点
4	ナショナル・ギャラリー	ロンドン	6,262,839	約2千3百点
5	バチカン美術館	バチカン市国	6,066,649	-
6	テート・モダン	ロンドン	5,839,197	-
7	国立故宮博物院	台北	4,665,725	約61点
8	ワシントン・ナショナル・ギャラ リー	ワシントン	4,261,391	約12万点
9	エルミターージュ美術館	サンクトペテルブルク	4,119,103	約300万点
10	ソフィア王妃芸術センター	マドリッド	3,646,598	-

※収蔵数に関しては、各施設のHP記載情報、および「諸外国の国立文化施設の概要」(文化庁、2010)を参照

